

J クラブにおける移籍加入・放出選手数と成績（順位）との関係
The relationship between the number of transferred players and position of clubs in J-League

1K09B189 松原 祐太
指導教員 主査：平田 竹男 先生 副査：中村 好男 先生

【背景】

毎シーズン、J リーグのみならず世界各国のリーグで大型補強と称される多数の有名選手の移籍加入・放出された選手の話題が取り上げられる。

近年では、アカデミーでの育成指導によって育て上げた選手をトップチームで活躍させることに注目が集まっている。

【目的】

本研究では、J リーグに所属するクラブが各シーズン行っている、移籍加入及び放出の選手はどれほどの人数がいるのかを明らかにすること、また、これらの人数がクラブの成績（順位）に結び付いているか否かを調べることを目的とした。

【方法】

2006～2011 シーズンにかけての 6 シーズン連続で J1 リーグに所属する 10 クラブを分析対象とする。

各クラブ・各シーズンの成績（順位）と、前シーズンから当該シーズンにかけての成績（順位）変動幅を「前シーズンの成績ー当該シーズンの成績」を用いて求める。また、J リーグのホームページにて公開されている、J 1 リーグ戦選手出場記録からデータを引用し、クラブ・シーズンごとに所属している選手を出場時間順に並べる。

次に、この出場時間順に並べた選手を、兼清（2011）の提唱したクラス分けを参考に 3 クラスに分類する。出場時間上位 11 人、12～18 位の 7 人、19 位以下の 3 クラスとする。

この時に、上記の 10 クラブが 2007～2011 シーズンにおいて、シーズンごとにどれほどの人数の選手が前シーズン終了後から当該シーズンが終了するまでに加入・放出されているのか、その人数を求める。このときに、総加入人数と総放出人数のみではなく、上記の 3 クラスそれぞれにおいては何人の加入・放出があったかを明らかにする。

さらに、これらの人数は、クラブの成績（順位）及び、成績（順位）変動幅とどの程度の間接性を持つのかを明らかにするために、単回帰分析を用いて分析を試みた。

【結果】

2006～2011 シーズンにおける 10 クラブ全体の上位 11 人加入

平均人数は 1.7 人、12～18 位加入平均人数が 1.8 人、その他加入平均人数が 4.9 人、上位 11 人放出平均人数が 1.7 人、12～18 位放出平均人数が 2.0 人、その他放出平均人数が 4.7 人となった。

また、10 クラブの中では、大宮の総加入平均人数が 11 人、総放出平均人数が 12 人、新潟の総加入平均人数が 12 人、総放出平均人数が 10 人となっており、この 2 クラブのみ総加入平均人数及び総放出平均人数が 10 人を超えた結果となった。

単回帰分析の結果、総加入人数と成績（順位）では約 20%の結びつきがあることが明らかになった。次に、総放出人数と成績（順位）では約 17%の結びつきがあった。さらに、上位 11 人加入人数と成績（順位）では約 14%の結びつきがあり、上位 11 人放出人数と成績（順位）では約 20%の結びつきがあった。また、その他加入人数と成績（順位）では約 11%の結びつきがあることが明らかになった。

【考察】

単回帰分析の結果から、選手の加入人数や放出人数は成績（順位）との結びつきは約 10～20%と低いことが分かった。

そのため、クラブは出場時間上位 11 人に入るような有力な選手も含め、選手が多数加入・放出することでの成績（順位）の低迷は気に掛ける必要があまりないと思われる。

一方で、本研究では加入人数が多くてもクラブの成績（順位）が高くなるわけではないという結果でもある。これからは、移籍加入・放出をうまく利用して、いかにクラブの成績（順位）を高められるかということが大きな課題の 1 つであろう。

【結論】

本研究では J リーグに所属するクラブにおける移籍加入及び放出の選手人数と、成績（順位）への結びつきを調べることを目的とした。

各クラブ・各シーズンの成績と選手の出場記録、移籍人数を用い、単回帰分析を行った。

この結果、移籍人数と成績（順位）の結びつきは約 10～20%と低いことが分かった。

この結果より、選手の加入・放出における成績（順位）の低迷は気にかける必要はないが、成績（順位）が高くなるわけでもないため、いかにうまく移籍を利用するかが課題の 1 つである。